

まえがき

森井啓二氏. こんな才能に, 私はいまだかつて出会ったことがない. 1人で『マテリアメディカ』を書いてしまうなんて. 後生畏る可しとはこのことだ. しかも一読して気がつくことは, 普遍性のなかに彼の個性が息づいているということである. だから薬物学の事典でありながら, 一個の読み物としても実に面白い. そう, これは森井氏自身の物語 (Narrative) なのだ.

物語とは内なる生命の発露である. 溢れ出ずる彼の生命が臨床の現場での長い, 長い時間のなかで, 1つひとつのレメディを紡ぎ出していったのだろう. これは, まぎれもない現場の知なのだ. 決して頭だけの作品ではないのだ. だから, ここに記載されているすべてのレメディが生々躍如としている. まるでレメディ自身が自らを物語っているようだ. ということで, これは並みのマテリアメディカではない. しかも, 日本人が日本語で書いた, はじめてのマテリアメディカなのだ. 私たちがこれを手にすることによって, わが国におけるホメオパシーの普及がぐんと加速されることはまちがいない. 百万の援軍を得たようなものである.

森井氏も, その設立メンバーの1人である日本ホメオパシー医学会 (Japanese Physicians Society for Homeopathy, JPSH) を発足させたのは2000年の1月のことである. イギリスのファカルティ・オブ・ホメオパシー (Faculty of Homoeopathy) の全面的な協力のもとに, 学会の活動も軌道に乗ってきた. 設立5年目を迎えた今, 医師部会, 獣医師部会, 歯科医師部会, 薬剤師部会の4つの分科会を得て, 会員数も200名を超え, グラスゴウ・モデルによる研修制度も第4期を迎えるに至った. これはもとより, われらが同志1人ひとりの努力の賜物であるが, なにかもっと大きな時代の力というものを感じないわけにはいかない.

人間は目に見える身体／細胞系と目に見えないエネルギー場が互いにダイナミックにはたらき合う多次元的複合体であるというが, このエネルギー場の歪みを患者の物語から描き出し, 該当するレメディのエネルギーをもって, これを是正するホメオパシーは, 代表的なエネルギー・メディスンといってよいだろう.

20世紀, 西洋医学は身体／細胞系を対象にめざましい発展を遂げた. ひるがえって, 21世紀はエネルギー場を対象とするエネルギー医学の時代である. まさに満を持してのホメオパシーの登場である.

今, このような時に, 日本人による日本語の, すぐれた『マテリアメディカ』を得たことは, 人間の計らいを超えた時代の必然のように思えてならないのである.

身を正し, かつ大いなる喜びをもって, この好著を迎えたいと思う.

日本ホメオパシー医学会理事長
 帯津 良一

著者序文

日本には古来より「山川草木悉皆成仏」という考え方があります。これは、自然界のすべてのものにはそれぞれ仏の心が宿っているという和の民族の考えです。つまり私たちを含めた動物や植物、鉱物などすべてに共通の源からくる波動が宿っているとして、互いの波動を尊重し調和するという生き方を実践するということです。

ホメオパシーを始めると、草木や花々、鉱石、光などの自然界の万物に内在する波動の存在とその美しさを感じることができます。もし私たちがその美しさに気づかなければ、それらは全く意味のないもののように思えてしまいます。一方、深い愛情と旺盛な探究心をもってすべてのものに接したら、すべての存在は私たちに素晴らしい情報を与えてくれます。

新しいレメディを勉強することは、新しい人と出会うのとよく似ています。それぞれのレメディは、特徴的な個性をもっています。そして、長く深くつき合うことによって、いつでも新たな一面を見せてくれます。よくレメディを熟知した後のレパトリゼーションは、パーティーのようなものです。よく知っているレメディの名が次々と出てくるからです。

本書は、全国の医師や獣医師の臨床家の先生方からの私の元へ送られてきた多くの質問や要望から生まれました。多くの先生方が、難解なマテリアメディカを読んで、レメディ像を生きた知識として理解することに苦労しているようです。そこで、臨床家の先生方がふだんから実践し体得している疾患の病態の知識とレメディ像の共通点を照らし合わせることにより、レメディ像を生きた知識として吸収しやすいようにしました。もちろん実際には病気として治療するのではなく、従来の診断に対する固定観念を捨てて、ホメオパシー的なアプローチにより症状をレパトリゼーションすることは必須です。

優秀なホメオパスとなることは、優秀な外科医であり、優秀な内科医でもある必要がありますので、頭の中でこれらを融合させて臨機応変に対応しなければなりません。

レメディ像を知ることは、ホメオパシーを始める第一歩であり、レパトリーを引く上で、必要不可欠なものです。これらの知識は、実際の症例での経験を積むことにより、より確実なものとなっていきます。本書を読んで、レメディ像や薬理作用、毒性、特徴などを把握すると、他のどの難解なマテリアメディカも理解しやすくなります。

ホメオパシーの勉強に楽な近道はありません。臨床におけるホメオパシーの処方は、偶然や直感だけで行うべきものではありません。より正確な処方をするためには、膨大な時間をかけた努力と実践が必要です。努力もせずに、常に正しい判断はできません。仮に天才がいたとしても、日々努力し続けている人にかなうことはまずありません。以前、ホメオパシーを勉強したいが、英語ができませんという方に会ったことがあります。心配はいりません。たった1年間ホメオパシーを勉強すると英語はペラペラになってしまいます。それだけ、膨大な量の英語の文献を読み続けなければならないからです。英語ができなければ、臨床の現場でホメオパシーを正しく処方していくことはむずかしくなってきます。もちろん、ホメオパシーは多大な努力と引き換えに、日々絶え間ない驚きと感動も与えてくれます。そして、何よりも正しい知識や洞察力、直観力が養われ、今後、臨床でホメオパシーを使用していく上で、貴重な財産となり、強力な道具となっていくことと思います。

2004年7月

森井 啓二